

公益社団法人宇都宮青年会議所  
2015年度 第1回 臨時理事会議事録

日 時：2015年 1月 8日 (木) 18:00～22:00

場 所：コンセーレ 小ホール

出席者：

- ( 理 事 長 ) : 須山 (敬称省略 以下同)  
( 直 前 理 事 長 ) : 村上  
( 副 理 事 長 ) : 澤畑、福田 (之)、太城、廣田  
( 専 務 理 事 ) : 金  
( 監 事 ) : 黒川、篠崎  
( 担 当 常 任 理 事 ) : 羽石、飯野、鈴木  
( 日 本 J C 委 員 会 特 別 委 員 長 ) :  
( 会 員 拡 大 特 別 委 員 会 ) : 小瀧  
( 法 令 会 計 審 査 局 局 長 ) : 豊崎  
( 事 務 局 局 長 ) : 飯沼  
( 委 員 長 ) : 辻、渋谷、篠原、増淵、宮林、福田 (弘)、山田、  
木村、飯塚  
( 局 次 長、副 委 員 長 ) : 間島、金田、柿沼、相田、八木、菊地、中嶋、板林、  
南木、佐藤、林  
( 準 理 事 会 構 成 員 ) : 齋藤、加賀田、亀井

1. 開会宣言 <金> (役職名省略 以下同)  
2. JCI クリード唱和 <木村>  
3. JCI ミッション並びに JCI ビジョン唱和 <佐藤>  
4. JC 宣言文朗読並びに綱領唱和 <相田>  
5. 関東地区宣言唱和 <渋谷>  
6. 出席者の確認 <飯沼>  
7. 議事録作人並びに議事録署名人の指名 議事録 <総務委員会>  
署名人 黒川 崇  
篠崎 達彦  
8. 議題並びに資料の確認 <飯沼>

## 9. 2015年度理事長挨拶 <須山>

明けましておめでとうございます。ついに2015年度をむかえました。2014年度の予定者の時から村上理事長より時間をお借りしましてしっかりと準備をして2015年度を迎えられたと思います。また、委員長におかれましては最後の事業計画をクリスマスや除夜の鐘を聞きながら作っていただいた方、一月に入って少しずつ修正して本当に真摯に向き合ってくれてありがとうございます。私ごとをいいますと1015年の1月1日を迎えた段階で理事長のやりたいことはほぼ終わったと思っています。というのは予定者の段階で所信をしたためて、どのような一年にしていきたいかという部分を含めまして、色々と執行部と話をしながら所信をかきました。そして何をしていくかという部分に関しては各ライン、委員長の皆様をお願いして、事業計画を作っていたわけでありまして。私としては1月1日を迎えた段階で12月31日まで走り切っていくだけでございまして私自身が何か新しい事業をやるとか変更するってことはできませんので、2014年度の予定者の段階で考えた所信を是非とも読み返していただきたい、そして真摯に挑戦していただき皆さんの成長に繋げていただきたいなと思います。私は皆さんをお願いして事業の成功を祈るだけですが理事長の職はしっかりとやらせていただきますし、執行部、正副を中心にしまして皆さんを支えていきたいなと思います。私は自分のことを率先するというタイプではないので入会してから理事長になるまで晴れの舞台で話ができるということ理事会構成メンバーに話ができる喜びというものをお話しできたらなと思いますので少しお付き合いしてもらえたらと思います。私は2005年に入会したわけですがけれども、同期というと小瀧特別委員長だけで先輩となると村上直前と安野監事の二人だけです。その前は大学において勉強はあまりできなくて地元の作新大学に行って就職をしました。就職はダイエックスという資格の学校で簿記を教えていました。1年目に簿記を教えて2年目に宅建を教えていました。勉強はできませんでしたが、資格や勝負ごとには強かったので、資格を取って何か就職に役立てようかなと思っていたのですが中々いい就職先がなかったのですがたまたま求人が出ていて東京の方で講師をしていました。もともと教職に興味があってやっていたわけじゃないですが人と関わっていくのはいいと思ひまして、22歳で年上ばかりですが先生と呼ばれる仕事をしていました。先生とは先に生まれると書きますのでなにかおかしいなと思っていましたがそのあたりで講師をしていました。そこで会社がたちいなくなってしまう、じつは2回ほど買収されているのですけれども資格の業界では5位くらいあまりよくないそういうところでしたがそこをやめて地元に戻ってきました。当然皆さんご存知のとおり須山ガスなのですけれども当時は社員が5人ぐらいで本当に街のガス屋って感じで、祖父、祖母、両親、従業員5人ぐらいでやっていました。とても会社と呼べる組織ではなかったと思います。どんぶり商売といえどどんぶり商売ですし事業計画や理念があるというわけでもなくて毎日お客さんの問い合わせに対応しているだけでおぼろげに儲かったらいいなと話していました。そんなに大きな会社ではなかったと思います。私は小島さんという方に連れられてJCに入会したのですが、それは基本的に自分の意志ではなかったと思います。うちの親と小島先輩が話をして息子をJCに入れちゃおうということでJCに入会しました。そういう人も中にはいるのではないかと思います。そういうわけで2005年に入会したわけでありまして。それからJCもいろんなことがあるのですがなんでこういう話をするかという10年JCやってきてやはりきついですね。それは金と時間だと思うのです。入会したころは給料も14,5万しか貰ってなくてどうやってJCやっていこうかと思ひました。時間も毎日現場に出ているだけで毎日が立ち行かないのです。そんな中で入会した次が宮まつり委員会になるわけですがけれども、毎日毎日飲み会がつづいて本当に毎日くたくたになって、懇親会も最後までいって鈴木秀範先輩にいわれまして2時3時になって帰りたいといってもお前は帰っちゃだめだといわれてそれでも朝6

時7時には起きて現場には若手ですから1番で行っていました。本当にあの頃はきつかったと思います。そこで学びが2点あったのですがJCやっていましたが会社が組織ではなかったのもそこは変えていかなきゃと思っていました。ただ親父が現役ばりばりですからこうしたいといっても何も通じないのでこれをどうやって論破して、ロジックを組み立てて説得して結果をのこしていかなければむずかしいわけです。1回失敗したらずっとお前のせいだといわれます。そのころは10戦10勝しないといけないわけで危機感を感じていました。そういうところで新しく人をいれたりですとかシステム屋と相談してもっと効率を上げようとか、仕入れの交渉をしたりといろいろ効率化して会社も少しずつ機能していきました。少しずつJCにさける時間も増えていきました。その頃は委員会メンバーで2年目は幹事とかやっていましたがそこは必死にくらいついていく場面もありました。私はあまり感情がないように思われるのですがここまでくるのに1番悔しかった事があって話すといつも泣いてしまうのですが、じつは同級生がひとり働いていました。その後辞めていくのですが捨て台詞をいわれて会社を去っていきました。それは須山の会社にも幸せになれないとかここにも未来がないとかそれをいわれたのが本当に悔しくて、辞めていきました。そして絶対見返してやりたいなと思いましたが、従業員は大切にしていたわけでJCやりながら会社をなんとかしていきたいと思っていてそこからそうやってきました。本当に従業員に支えられて会社が少しずつよくなっていきました。そしてJCにさける時間もできてきて新しく、ダスキンとか空調屋さんとかいろいろな話が来た時に判断するときにJCの経験がすごく役にたちました。そのころとは比べてもしょうがありませんが人数も多くなりましたし、毎日青年会議所の運動もできて、多く仲間ができて幸せだと思っています。何がしたいかといいますと簡単にいうと理事長めざしてもらいたいと思いますし、委員長の皆さんは常任理事、常任理事の方は副理事長をめざしてもらいたいと思いますし、監事の皆さんは卒業なのでよい人生を歩んでもらいたいなと思います。テーマにつけさせていただいている真摯に挑戦というのはそういうところにあるして1日1日を無駄に過ごしてその友人にいわれたことが本当に悔しくて見返してやろうと従業員は幸せにするんだという想いがあって挑戦しなきゃいけないなと思ったわけです。JCやっていくと仕事やその他の部分でも活かせる場面がすごくありますので是非一年間挑戦してもらって成長してもらいたいなと思います。もうその友人とは会っても特別な感情はありませんがこの話をすると泣いてしまうので相当辛辣な思いをしました。ぜひこの理事会構成メンバー、また準理事会構成メンバーにはオブザーブしていただき今年はやっていきますけれどもいい1年にしたいなと思っていますのでどうぞ1年間ついてきていただければと思いますのでよろしく願いいたします。ありがとうございました。

#### 10. 直前理事長挨拶 <村上>

2015年度の理事会が多く理事のメンバーのもと開催されたことを頼もしく思っております。少し欠席者がいるのは残念ですがいいスタートが切れたと思います。冒頭のセレモニーでは私が予定者の段階でしつこくいておりました部分に真摯に挑戦していただいた方が何人かみられました。増渕君なんか真摯に挑戦して暗記したんだぞといわんばかりに目をつぶりながらいたり、そんな姿をみて頼もしく思えましたし、非常にうれしく思っていました。そして実は年末年始の時期に私はギックリ腰になって動けなくなってしまったのですが家にずっといました。ちょうど1年前のことを思い出していました。実は理事長予定者の時から理事長になる瞬間ですが12月31日11時59分からカウントダウンが始まって時計をみていました。カチッと鳴った瞬間にもう理事長なのです。実はすごく緊張したのです。予定者というのはあくまでも予定者なので何者でもないのですが

一秒針が動いた瞬間から当事者になるわけです。すごく大きな責任を感じて過ごした1年になるわけですが、無事に1年終わったのは感謝したいと思います。たぶん須山理事長もそんな1月1日を迎えたのではないかと思います。思い返してみればJCは単年度制ですから毎年毎年こういう瞬間というのは訪れるわけでございます。2015年はじめて理事になった方もいるとは思いますが、私もはじめて理事になった時はそんな緊張感がありました。1月になって自分の中で理事なのだという自覚をして少し誇らしく思えたと同時に非常に大きな責任も感じました。もちろん当時は委員長でしたのでこれから委員会のメンバーとどうやって過ごしていこうかと考えました。もちろん予定者の段階から考えてはいましたがいざ1月に入るとメンバーと向き合わなければならないし理事長の運動の方向性をしっかりと理解をしながら1年間過ごしていかなければならないそんなことを毎年感じる1月だと思います。これは非常にJCらしいことではありますが1月っていいなと毎年思うわけでありまして。さて2014年度も無事に終わりました2014年度の理事会案件等々があるのですがもちろんこれは昨年からずっといい続けていることなのですが単年度制であるJCは常に進化をし続けていかないといけないわけでありまして。2014年度の宇都宮JCよりも間違いなく2015年度の宇都宮JCのほうがいい組織になっていなければならないそして運動もこの地域においてさらに昨年よりも今年のほうが広がりを見せなければ我々がやっている意味がありません。先輩方が多く抜けていきました。12月のさよなら例会で先輩方が想いを込めてみんなの前で話していききましたけれども我々一人ひとりというのは我々先輩達48年積み重なっている組織です。そのことを特に理事会構成メンバーがしっかり自覚をして覚悟を持ちぜひ委員会メンバーと真摯に向き合ってそして難しいですが委員長がメンバーに真摯に向き合わせるというのは非常に難しい部分であります。自らが向き合うように是非促していくような指導をしてもらいたいと心から思うわけでありまして。須山理事長の先ほどおっしゃっていた真摯に挑戦する姿というのは1日1日を大切に過ごすことそんな話をされていたとおりの我々は1日1日、一瞬一瞬家族や会社、社会とJCと真摯に挑戦する原点というのは1日1日を大切に過ごすことでそんなお話をされていたとおりの我々が1日1日、一瞬一瞬を家族、会社、社会、JCと真摯に向き合っていかなければならないと思います。今日が2015年度我々にとっての始まりの1日でぜひ2015年度素晴らしい宇都宮をつくっていききたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

## 1.1. 役員報告

<木村> 1月15日おたりや祭メンバーの出席が30名超えてきました。寒いので暖かい恰好をして足袋ではなくてスニーカーでも大丈夫です。増えるメンバーがいましたら衣装の関係もありますので報告してください。ますますの応募よろしく願います。

<南木> 拡大は毎月毎月が勝負になってきますので、ビジターの情報をよろしく願います。情報いただければ拡大メンバーでフォローしていきますのでよろしく願います。

<金> 会議の時間が決まっていますので理事会、常任理事会の上程の時間をまとめて要点をしっかりと伝えてください。資料については事前の配信をお願いします。基本の上程時間は3分を目安に願います。メンバーのミーリングを作

成しましたが基本的なルールがないと大変な事になるので皆様に伝えておきます。あとで事務局長より報告しますが基本メーリングの配信時間は9時～21時まででお願いします。メーリングの内容は担当の副理事長か専務理事に確認して許可を得てから配信してください。メーリングの投稿の権限は理事会構成メンバーとさせていただきます。

<須山> 全国大会招致会議について読み合わせた件についてこれから小会議を行っていくと思います。小会議で読み合わせた内容をどのように感じて活かしていくかぜひ討議していただきたいと思います。小会議ごとに400字でまとめて提出していただければと思います。

## 12. 審議事項

### 審一〇一 第112回通常総会資料（案）承認の件

審議資料に基づき、辻総務委員長より上程文の読み上げ

<須山> 何をどう修正するのかわからないと審議にならないので時間をとりますか。

<辻> ページ数も多いので少し時間をいただいて確認していただいてご指摘いただければと思います。事業計画で皆さんに書いていただいたものがあるのですがその1番下に事業計画ということで番号をふっていただいて簡潔に書いていただいたものがあるのですが、数字が丸で囲まれているものだったり、スペースの幅がずれているものがあるのでそれを修正したいと思います。数字は○の囲みをなくす方で統一してください。スペースは文章後に1行空けていただいてかっこ事業計画のあとに数字の○なしで1番から並べてください。

<須山> 総会資料についてはメモして付箋を貼ってください。決算については挙手にてよろしく願いいたします。

<山田> 総会、例会、事業活動予算の修正予算の件で全国大会の事業活動費で7月の対話集会費が100万の所50万上乘せられて150万になっているのですがこれは新しい事業を生み出すのではなくて運営をする事業になると思いますので、50万円の配分他の公益事業、例会事業の方に配分変更をしたらどうかと思い質問させていただきます。

<金> いらないということですか。

<山田> いらないというわけじゃありませんがたとえば20万円にして30万円は研修例会の方にまわすとかして、対話集会というものに150万の予算をつけることはないと思います。

<金> たとえば3月例会にも150万の予算をつけています。全国大会対話集会においても予算をつけるほど重要な事業だと感じておりますので是非150万の予算をつかっていただいてその事業の目的を達成できるように行っていただきたいということで50万円の予算をつけました。

<山田> 予算をつかうようにがんばります。

<須山> ご意見なきようなので審議のほうに移りたいと思いますがいかがでしょうか。それでは決をとります。審議事項1番、2015年度公益社団法人宇都宮青年議所第112回通常総会資料(案)承認の件賛成される理事の方右手挙手にてお願いいたします。反対の方、白紙の方。事務局長お願いします。

<飯沼> 全会一致です。

<金> 全会一致を持ちまして、審議可決とさせていただきます。

### 13. 協議事項

協-01 代表理事選任(案)について  
協議資料につき辻委員長より読み上げ。

<辻> ご意見なきようでありましたら代表理事選任(案)について審議格上げの同義をお願いいたします。

<金> ただいま、辻委員長から、審議格上げの動議がありました。セコンドされる理事の方、右手挙手をお願いいたします。小瀧委員長、山田委員長お願いします。それでは審議格上げの決をとりたいと思います。賛成の方、反対の方、白紙の方。事務局長お願いします。

<飯沼> 全会一致です。

<金> 全会一致を持ちまして、審議可決とさせていただきます。

協-02 その他  
なし

### 14.

報告依頼事項

報-01 対外配布資料承認申請書について

<金> 年末に皆様にメーリングでご確認いただきましたものなので再度確認をお願いします。

報-02 アテンダンス申請書について

<金> 2015年度バージョンを作成しましたので確認をお願いします。

報-03 2015年度事業計画(案)

<金> ご一読ください

報-04 2015年度年間事業フレーム(案)

<金>           ご一読ください

報-05 その他

木村委員長より対外配布資料承認申請書についての確認

15. 委嘱状授与式

16. 監事講評           <黒川>

あけましておめでとうございます。総務委員会、渉外委員会設営お疲れ様でした。本日審議案件2件、総会資料ということで総務委員会の皆様には素晴らしい設営をしていただきたいと思います。そして代表理事選任ということでJCの絶対的存在である理事長を担ぎあげていただきたいと思ひますし、須山理事長におかれましても強いリーダーシップをとって理事会構成メンバーを引っ張ってもらいたいと思ひます。2014年度12月26日に最後の理事会がございました。その時に監事講評でこんなことをいったのですけれども皆さんの顔が変わったなと感じました。特に初理事、初委員長顔つきが変わりとても頼もしいと伝えました。やはり1年間、初委員長として理事会で上程して色々なことがあつて時には来たくない時もあったかと思ひますがそれでもめげずに委員会メンバーを背中に背負つてこの理事会に出てきてどんなに意見をいわれてもどんなにやり取りがあつてもめげずに歯をくいしばりながら理事会で上程して審議をもらつて当日事業を設営していただき1年やつていくことで自己成長があつたのかと思ひます。ぜひ皆さんもそんな1年にしてもらいたいと思ひます。最後になります。2015年度の皆様のご活躍をご祈念申し上げ私からの監事講評とさせていただきます。本日はお疲れ様でした。

17. 閉会宣言

<金>

公益社団法人宇都宮青年会議所  
2015年度 第1回 臨時理事会議事録

議 長：( 専務理事 ) 金 克彦

議事録作成：総務委員会

議事録署名人：黒川 崇  
                  ：篠崎 達彦